

ようこそ、国労へ！

熱烈歓迎 大友さんの勇気と決意に感動



No. 2699
2015年5月15日
発行責任者 大沼 元
編集責任者 武田 昌仙



分会の仲間と共に

【熱烈歓迎】安心して働ける職場を共につくる
山形県支部山形連合分会国労加入歓迎会
4月9日付で新規加入した山形連合分会大友麻実さんの歓迎会が、5月2日、山形市内で盛大に開催された。会には、当該職場の山形保健技術センターの組合員を中心に21人の仲間が出席して、大友さんの新規加入を歓迎した。

主催者を代表して山形連合分会長谷川分会長（山形車両センター）は、「安心して働ける職場を共につくる」とあいさつ。
来賓として東日本本部宮崎副委員長、同武田組織部長、東日本本部工務協湯浅議長、交運共済仙台事業所伊賀所長が出席し、地本大沼委員長、原子書記長、千葉組織部長も同席した。
来賓からのあいさつを受けた後、大沼委員長からは国労手帳と国労バッジが大友さんに手渡され、東日本本部武田組織部長からは、全国の仲間から届けられた襦袢が贈られた。
そして新規加入した大友さんは、「一年間考えて国労に入ることを決めました。よろしく願います」と明るく加入に際しての言葉を述べて、会場から盛大な熱烈歓迎の拍手を受けた。
続いて東日本本部工務協湯浅議長が「大友さんの決断に感謝と敬意を表し、国労保険ガールの誕生をお祝いしたい」と述べて声高らかに祝杯を挙げた。
その後、大友さんに対して出席者全員から加入の感謝と激励の言葉が贈られた。会場は終始和やかな雰囲気になって、会は大友さんが初めての団結頑張ろうで締められた。

4・10 第8回地方執行委員会
4・12 第58回アスベスト対策委員会
4・19 婦人部常任委員会
4・19・20 福祉問題学習会・慰労会
4・23 国労フクシマ交流会総括会議

大惨事から十年・決意新たに

仙台・郡山で安全問題を検証する集会

地方本部は4月24日、仙台市内と郡山市内において、「安全問題を検証する日」として集会を開催した。
この取り組みは、10年前の05年4月25日に発生したJR西日本福知山線での脱線転覆事故（死者107人、負傷者562人）及び、同年12月のJR東日本羽越線での脱線転覆事故、翌06年1月のJR西日本伯備線での触車死亡事故など、立て続けに発生した重大鉄道事故に鑑み、仙台支社内で発生した運転事故・労災事故等について検証し、教訓化するために06年から開催しているもの。

安プロ会議が始まり

地本安全問題プロジェクト会議（以下安プロ会議）は、前記のような惨事を繰り返さないことを誓い、そのためには乗客や働く社員の側に立った安全対策や会社施設を求めているとして06年10月に設置。以降、定期的に会議を重ね、安全に関する調査・研究・分析を進めてきた。
そして具体的活動として、①毎年4月25日に「安全問題を検証する集会」を開催する、②各職能・職場の問題を集約し、問題の共有化と改善運動に向けたバックアップ体制を取る、③諸要求を業務部でまとめ、団交開催を支

各地の集会では

宮城県集会はエルパーク仙台で開催し、主催者あいさつと安プロ会議からの問題提起後、職場からの報告として、仙台電気協議会から千葉議長が、「大根原踏切事故対策とその後」について報告。
続いて山形県支部原田委員長から、「仙山線で長時間に亘って乗客が列車内に閉じ込められた事実の問題点」について報告がされた。
また福島県集会は郡山市ビックアイで開催し、電気協議会から大橋事務局長が仙台と同様のテーマで

4・24 安全問題を検証する集会（宮城・福島）
4・30 東北交運労協（バス部会）
5・9 国労東北協議会幹事会
5・10 15春闘総括会議
5・12 第9回地方執行委員会

引き続き活動を展開

福島県集会では、地本安プロ会議を代表して歌川業務部長（地本副委員長）は、「この間の取り組みでは、新幹線総合車両センター・TKK社員の労災死亡事故から始まり、昨年は塩釜SPのパートナール会社員感電事故と磐越西線翁島・更科間の協働会社作業員の労災死亡事故を取り上げ、会社側に事故原因と対策を明らかにさせてきた。
安プロ会議では職場実態を詳細に把握・集約し、現場と連携して団交では会社の誤りを正し、問題改善に結びつけてきた。
今後とも会社の言う「究極の安全」をスローガンだけに終わらせないよう、引き続き安プロ会議の活動を展開する」と述べた。

国労で終える誇りを胸に

長い間本当にお疲れ様でした



国労運動を支えてきた先輩方

地方本部は4月19、20日、松島町・ホテル大観荘において「福祉問題学習会及び慰労会」を開催した。

会議には、15年度と16年度の退職予定者のうち、既に昨年参加した対象者を除いた28人が参加し、退職後の諸制度等について学習した。

冒頭、東北労金の石垣営業推進部調査役より、「公的年金制度の見直しと定年退職予定者ライフプランセミナー」を受け、続いて東日本本部佐藤書記長からは、シニアに関する諸制度とエルダー社員制度関連、またエルダー・嘱託社員の組合員継続の要請がされた。アスベスト健康手帳取得については中島地本アスベスト対策委員長が説明を行なった。

続いて交通共済からは、東北支所太田副本部長からあいさつを受け、東北支所仙台事業所伊賀所長より60歳以降の再雇用者・退職者の各種共済利用についての説明がなされた。

更に鉄道退職者の会仙台地方連合会からは沼下事務局長から積極的な加入の要請があった。

第二部の慰労会では、40余年に亘る鉄道人生で苦楽

を共にした仲間との語らいが尽きることなく続いていた。

※参加された皆さん

(敬称略・順不同)

○大宮 三男 ○五十嵐隆敏
○村上 晃一 ○後藤 秀一
○村上 広記 ○阿部 正夫
○岡根 悟資 ○齋 琢男

退職のお知らせ

3月31日付

鈴木 博文さん
郡山設備(電力)
(日本リーテック)

森本 重隆さん
仙総台車
(東日本テクノロジ)

佐藤 典彦さん
東工所(退職)

4月30日付

及川 隆志さん
東工所(嘱託)

加藤 悟さん
仙台保線区(退職)

3月31日付

斎藤 志津子さん
郡山駅連合
(ビジネスえきねっと)

4月30日付

日向 孝治さん
仙台保線区
(仙建新幹線仙台)

○安保 功彦 ○横山 静夫
○白井 光則 ○堀越 章広
○高橋 眞 ○大越 喜一
○真砂 久子 ○加藤 宏
○菅野 次男 ○熊田 幸雄
○鈴木 芳紀 ○須藤 昌志
○新田 順一 ○佐藤 文彦
○佐々木茂美 ○川口 弘昭
○内田 五郎 ○酒井 均
○阿部 靖彦 ○仙崎 淳

大宮 三男さん

小牛田保線区
(TSS岩切用地)

小室 勝則さん

岩沼駅連合(退職)

長谷川 正幸さん

会津若松地区
(仙建若松土木)

斎藤 久文さん

山形連合
(Jテック山形)

4月28日付

佐藤 誠勇さん
貨物宮城(退職)

長い間お疲れ様でした

お悔やみ

郡山工場支部車体科分会の安藤芳典さんが、3月21日にご逝去されました。享年58歳でした。心からお悔やみを申し上げ、ご冥福をお祈り申し上げます。

電力現場の実態 山手線事故から

山手線の電柱倒壊事故は私が保守している電力設備の事故である。

「サンデーモーニング」のコメントが、「日本の技術者や作業員は真面目で技術力が高いが、余裕がないのでは？」と言っていたが、そのとおりであると感じる。

請負会社は複数の工事を抱えて工期も余裕がなく、一つつまずくと大変なことになる。

そしてそのしわ寄せは3K労働(劣悪な労働条件)として下請けに丸投げされているのだ。

ひとたび何かあれば、その責任は「責任施工」の名の下に、請負会社へ責任転嫁され、また下請け作業員には労災死傷事故という最悪の形で繰り返して発生している。

そうした実態が、今回の山手線の事故の背後要因になっているのは明らかだ。

保守区で監督業務しているが、こうした事故の度に実感する。

今回の山手線の事故は工事区の発注及び監督の工事であるが、強度計算が行われていないとの報道がされている。

併せて倒壊した柱(支線の仮の基礎として代用された)の基礎確認もすっかり出来ていなかったと

推察される。

このことは、工事区社員の技術力よりもより過重な業務量が背景にあることは容易に想像できるが、しかしその実態は工事職場国労組合員が不在というところもあり表面に現れない。

また、私が働く保守区では、その基礎等の強度計算の元となる図面や諸元データの管理・更新を行っているが、お世辞にもしつかり行われているとは言えない。

加えて、工事区の工事内容容は、個々の担当保守区に説明も殆どなく、「いつの間にか設備が変わっていた」という状況も度々発生しており、異変を見逃す要因であると感じる。

いづれにしても、先般の川崎事故などすべての事故は単純なものではなく、その根は深い。

「設備部門におけるメンテナンス体制の再構築II設備メンテナンス合理化」から14年が経過したが、その矛盾は解消することなく今も進行中だ。

今回の事故を会社はどう受け止めるのか。

JR北海道の問題は、対岸の火事ではないというところから始めなければならぬ。

立山昭仁
【国労仙台地本電気協議会・新幹線分科長 白石電力メセ勤務】